

書評

中村 純 編集, 野村総一郎, 中村 純, 青木省三, 朝田 隆,
水野雅文 シリーズ編集

《精神科臨床エキスパート》

抗精神病薬完全マ스터

樋口輝彦

向精神薬に関する解説書は数多く出版されている。そのコンセプトは、添付文書に限りなく近いものから、薬理に重点を置くもの、使い方に主眼を置いた実践的な書などさまざまである。そしてその多くはマニュアルあるいはハンドブックの体裁をとっており、通読するよりも、むしろ外来や病棟に常備して、必要の都度、必要な項目に目を通すのに適しているものが多い。

本書は以上のような類書とは一味違った構成である。言い換えれば、これまでの類書の良いところを取り込んだハンディな一冊といえるだろう。以下、本書の特徴について、2, 3 記してみたい。

その1つは冒頭の「精神科臨床エキスパートシリーズ刊行にあたって」の中で述べられているように「現在、精神科臨床の現場で最も知識・情報が必要とされているテーマについて、その道のエキスパートに診療の真髄を惜しみなく披露していただく」というコンセプトが実行されている点である。執筆者がその道のエキスパートであるのは言うに及ばない。「診療の真髄」は「臨床上のヒント・注意点」と「臨床ケース」ににじみ出ている。

2つ目に本書は6つの章で構成されている

が、通読向きの章(第1章～第3章, 第5章)と、必要の都度、その薬の項目をピックアップして読む、言ってみればハンドブック的な章(第4章)があるので、1冊で2回違った味を求めることができる点である。

3つ目に、第4章の項目立てが大変よくできており、実践向きである点である。まず、冒頭に添付文書情報がコンパクトにまとめられている。次に概説、薬理学的作用機序、薬物動態、適応症と治療方針、副作用とその対策、相互作用とその対策、臨床上のヒント・注意点、臨床ケースの順に簡潔にまとめられており、大変読みやすくできている。

本書は専門医をめざす若手の精神科医にも、また生涯教育を受ける世代の精神科医にも必携の書になるものと思われる。

最後に一点、希望を述べさせていただくと、薬はこれからも次々に開発され、新規薬剤が市販されるので、それをキャッチアップするために頻繁に改訂を加えていただければありがたい。

(国立精神・神経医療研究センター理事長)

●B5 240 頁 2012 定価 6,090 円(本体
5,800 円+税 5%) 医学書院